

物性研への地方からの要望

平成18年12月7日

広島大学 大学院先端物質科学研究科, 先進機能物質研究センター 高島 敏郎

はじめに

物性コミュニティーと物性研究所が双方向的に良い刺激を与え合って、両者が発展するために、「物性研への地方からの要望」を述べます。私自身は1984年4月から4年間、物性研の石川征靖所員のもとで助手として希土類化合物や超伝導銅酸化物を研究し、その後広島大学に職を得てからも物性研に大変お世話になっています。特に、物質設計評価施設、新物質科学部門、極限環境物性部門、中性子科学研究施設、軌道放射物性研究施設の方々との共同研究により、希土類やウランを母体とする金属間化合物、カゴ状化合物について多くの成果を挙げることが出来ました。さらに、物性研で博士を取得した3名をポスドクとして受け入れたのに続いて、助手もお迎えしました。このような個人的な共同利用・共同研究と交流の経験から次のような問題を提起します。

要望と問題提起 I 一般論

- 物性研の所員と事務部職員は物性コミュニティーの中核であるとの自覚を持っているか？
新しい潮流を作ろうとしているか、Phys. Rev. Lett. を出せばよしとしていないか
- 物性研究ネットワークの「国分寺」や「中・小規模の拠点」と物性研の連携は進んでいるか？
地方に足を運んで、宣伝や議論をしているか？
地方大学の客員教員となって、全国の学生に刺激を与えているか？
(KEKの組織的活動との比較)
- 世界、特にアジアの拠点との連携は進んでいるか？
- 人事交流では北海道から沖縄までに目が届いているか？
物性研の博士取得者、助手、所員をどんどん地方へ
- コミュニティーを代表して大型予算(特定領域研究など)を申請しているか？

要望と問題提起 II 共同利用関連

- 次期中期計画の策定で共同利用に関する部分は共同利用施設専門委員会で審議して欲しい。
共同利用の制度や予算配分を見直すには良い機会 (事務部との共同作業が大切)
- 事務部物性研担当は共同利用をよく理解しているか？
例: 宿舍利用費支払いで「釣銭の無いように」は古い。
- 共同研究者や各種委員が所員の出身研究室周辺に偏っていないか？
- 開発した新手法や装置を地方に普及しているか？
- 委員会や研究会開催日程は土日や休日も含めて欲しい。平日の授業を休講すると、教育に支障が出るだけでなく、学生からの評価も下がる。
- 「物性研だより」には生の声が少ない。多くの頁を占めるシンポジウムの発表要旨はホームページに掲載すればよい。代わりに、新任教員や停年を迎えた教職員の挨拶、博士論文題目などはどうか。
- キャンパス内部にコンビニエンスストアと朝食を取れる施設が欲しい。
- 6階の講義室前には、湯茶の用意ができる常設テーブルがあれば便利。